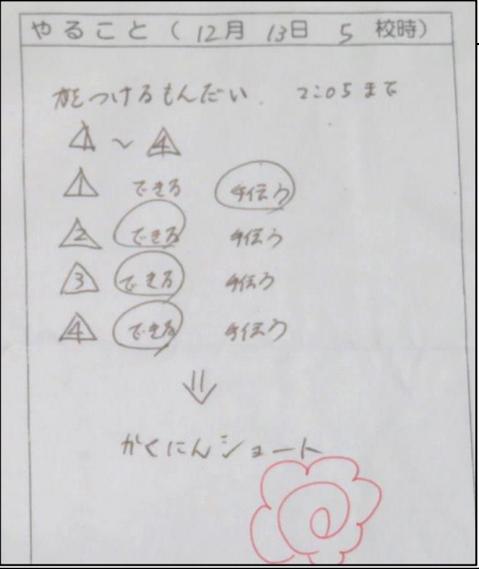


教材・支援機器活用実践事例

【自己決定の機会を設けるとともに、

やり遂げた満足感を味わうことができる工夫】

子どもについて	学校・学年・学級	小学校 3年 通常の学級
	対象の障がい	広汎性発達障がい
	授業形態	集団学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味の幅が広く気になることがあると、すぐに行動してしまう。(離席、教室からの飛び出し等) ○ 本児に対する友達の口頭による「注意」が刺激となってしまう、暴力的な行動に出ることがある。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「やることシート」 
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本児が見通しを持って、授業に参加できるようにする。 ○ 本児と支援者が学習内容に関して交渉しやすくする。
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「やることシート (以下「シート」)」の使い方を支援者 (担任・支援員・コーディネーター) 間で共通理解を図り、支援方法を統一した。 ○ 「シート」の記入内容は、本児と相談して決め、基本的に1度決めたことは、必ずやることを約束した。また、1時間終了ごとに評価をし、称賛をした。 ○ 「シート」は使用後に回収してファイリングをし、必要に応じて読み返すことができるようにした。 ○ 友達からの「注意」が本児にとっての刺激となることから、周囲の児童には注意をさせないようにした。「教えてくれてありがとう。〇〇さんには先生から注意するから大丈夫だよ。」等)
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「シート」を使用することで、本児にとって活動が分かりやすくなり、見通しをもって学習に参加することができた。 ○ 疲れているときや気持ちが向かないときには、休憩をできるようにしたところ、飛び出しや離席が少なくなった。 ○ 友達から注意を受けることが少なくなったことで、授業中にイライラすることが減り、友達への暴力が少なくなった。 ○ たくさん称賛を受けたことで自己肯定感が高まり、様々なことにチャレンジしたり、友達とのかかわりが増えたりした。